

サポートの原点を問う

大石 敏寛 (せかんどかみんぐあうと)

●はじめに

カクテル療法という複数の薬の併用は、これまで多くの入院患者や死者を出してきたエイズへの治療において画期的な成果をおさめつつあります。日本を含め先進諸国のエイズによる死亡率は低下し、また、欧米諸国ではエイズ患者のために作られたホスピスも、昔は順番待ちという状況から、入所者の減少によって施設数が減ってきているという話もききます。身体的な健康の回復から考えれば、あきらかに前進していると考えられますが、しかし、現実には医療の進歩に患者の心理的側面やライフスタイルがそぐわないという現実も存在しているのです。

●治療

カクテル療法は、確かに画期的な治療法ですが、治療を行う患者にとっては、大きな決断が必要とされます。米国では、カクテル療法に対して患者が「Good」という思いでは始める時期ではなく、「Excellent」と思うようになってやっと始める時期だというドクターがいるくらいです。それは、一度始めた治療は、なんらかの理由で中断することで、治療を開始する前より悪い状況になることがあるからなのです。薬を飲むにあたり、生活の制限やライフスタイルの見直しが必要とされるこの治療法は、患者一人の思いだけでは、なかなか難しいものがあるでしょう。

- ・ 食事制限
- ・ 時間制限
- ・ 1日の水分摂取

時間	行動	内服薬
5:00	食事禁	
6:00	食事禁	
7:00		AZT+3TC+IDV
8:00	食事禁	
9:00	朝食	
10:00	500mlの水分摂取	
11:00		
12:00	昼食	
13:00	食事禁	
14:00	食事禁	
15:00		AZT+IDV
16:00	食事禁	
17:00	500mlの水分摂取	
18:00		
19:00	夕食	3TC
20:00		
21:00	食事禁	
22:00	食事禁	
23:00		AZT+IDV
0:00	食事禁	
1:00	500mlの水分摂取	

→ メンタルヘルスの役割とは

1. ライフスタイルによっては、治療を行わない患者がおります。
治療を行わないことで、「ダメ患者」と思わないようにサポートしていく。
2. 治療を開始しても、継続が困難な場合があります。
継続が困難になった患者に対して、一方的な服薬指導は患者を追い詰めることにつながります。どうして継続が困難なのか患者と向き合うことで、継続が容易になることもあるでしょう。
3. 治療の効果が思わしくない患者の場合。
他の患者と比較して、データが思わしくない場合、精神的に追い詰められます。そんな場合は、新しい治療の切り替えだけでなく、心のケアも行う必要があるでしょう。

2013
 2013年 Needs to individualize